

東北森林管理局 森林技術・支援センター たより

No. 52 (H25.12)

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町中里亀山540-8

TEL : 0173-57-2001

FAX : 0173-57-4929

E-mail : t_gijutu@rinya.maff.go.jp

ヒバ林施業に関する現地検討会の開催

ヒバ天然林の中には、下層植生が見られず地表面が裸地化している単層一斉林型の林分が少なくありません。このような林分では、適度な伐採を実施し光環境の改善を図ることにより、下層植生やヒバの後継樹の発生を促すことができるという試験結果が得られました。平成25年9月19日(木)、試験地において、ヒバの人工林を育成している青森県、県内周辺市町村、森林組合担当者等を対象に技術の普及を図るため現地検討会を津軽森林管理署金木支署と共同で開催しました。

また、ヒバ林において課題となっている漏脂病についても、調査状況を説明するとともに、試験地での被害状況を確認しました。

現地検討会には総勢約50名の参加をいただき、参加者からは「ヒバ単層一斉林型を複層林型へ進めるに当たり、天然ヒバ実生が林床に定着した後、上層木を伐採する際、天然ヒバ実生や稚樹の損傷を軽減する技術に関して、積雪時の他に施業の方法があるのか。」「この施業技術に関するマニュアルの作成が必要」等の意見が出され、意見交換を行いました。

今後とも引き続き、森林技術・支援センターで開発した施業技術の成果を民有林に普及し活かせるよう支援に取り組んでいく考えです。



技術開発成果の説明



増川及び大畑ヒバ施業実験林パネル展示



現地説明

増川ヒバ施業実験林の旧6林班における全本数調査の実施

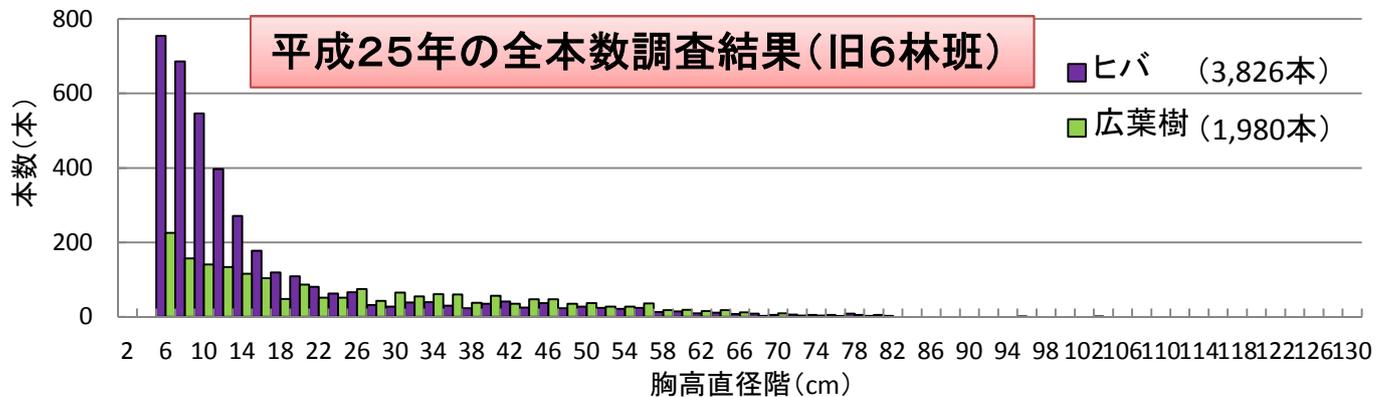
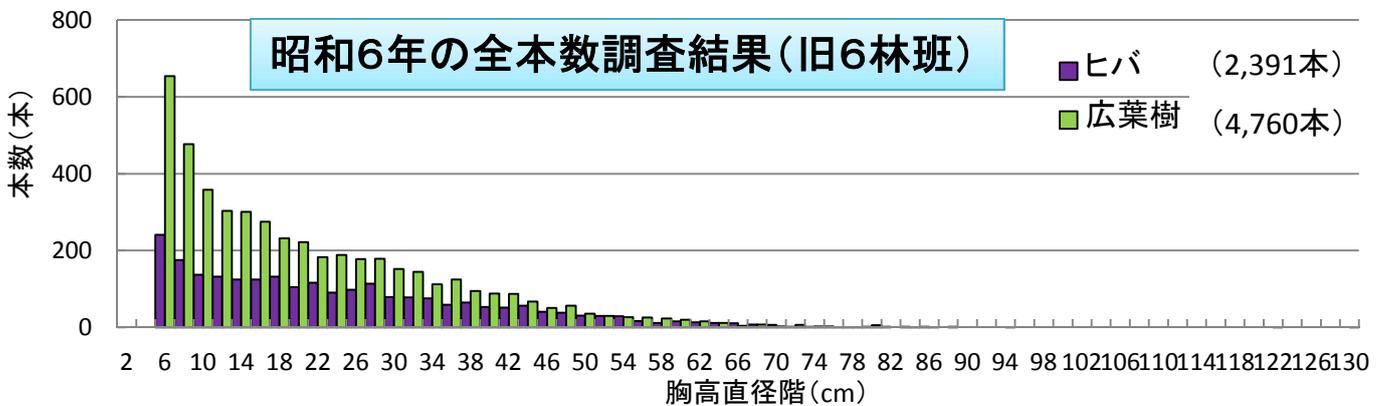
青森ヒバの天然林施業は、当時青森営林局技師の松川恭佐(まつかわきょうすけ)氏が中心となってヒバの調査研究を行い、昭和5年に「森林構成群を基礎とするヒバ天然林の施業法」を確立しました。そして昭和6年にこの施業法を行い、施業効果を立証するために増川ヒバ施業実験林(津軽半島)と大畑ヒバ施業実験林(下北半島)を設定しました。

これまで昭和6年から行われている胸高直径6cm以上の立木の全本数調査を、平成25年6月3日(月)に青森森林管理署の職員と共同で旧6林班において実施しました。

昭和6年当時は広葉樹の方が多いい林分でしたが、施業の効果から現在ではヒバの小径木が多い林分へと移行していることがわかりました。



増川ヒバ施業実験林にて全本数調査打合せの様子



技術開発課題の調査

技術開発課題については、「国有林野事業における技術開発基本目標」及び「東北森林管理局における技術開発目標」に基づき、社会的情勢の変化や技術開発委員会の審議を経て課題を設定しています。

今年度は、「ヒバ天然林施業の調査データ収集と解析」、「人工林に侵入する広葉樹との針広混交林施業の検討」等の合計7課題に取り組んでおり、調査・分析を行っております。



樹高調査の様子(平成25年5月16日)

中里中学校との体系的な森林環境学習を実施



森林教室



空中取り木体験



植栽体験

平成24年5月24日、青森県北津軽郡中泊町の中里中学校と津軽森林管理署金木支署は国有林を活用し森林環境教育を推進することを目的に「遊々の森」協定を締結しました。生徒たちが「あすなろ自遊モリ森」と名前を付けています。

森林技術・支援センターは森林・林業における技術的な協力をしています。

平成25年度の活動は、津軽森林管理署金木支署と共同で6月12日(水)に中里中学校1年生64人を対象として、体育館で森林の役割の説明、木材や森林調査器具を用いた体験学習や空中取り木の苗木作りについて、森林教室を行いました。

6月21日(金)に中泊町今泉山国有林内で、県及び町の木にもなっているヒバで空中取り木の技術を用いた苗木作りや森林調査(木の高さや太さを測る等)の体験学習をしました。この活動によって、アンケート結果から森林に対する興味が非常にわいていることがわかりました。

10月1日(火)に中泊町今泉山国有林内で、6月に作製した空中取り木の苗木の発根を確認し、植栽体験をしました。

枝から根が出ている状況を確認した生徒から、「枝から根が出ているのがおもしろい」、「ちょっと気持ち悪い・・・」等様々な感想がありました。

植栽については、「穴を掘るのが大変」、「大きくなるのが楽しみ」といった感想がありました。

また、中学2年生を対象に7月2日(火)に下刈り体験を実施しました。

苗木作製や植栽体験等は、当センターや津軽森林管理署金木支署職員が班(1班5、6名)のリーダーとなって、実技指導を親切丁寧に行いました。

※ 空中取り木とは、植物の人工的繁殖方法の一つで枝の途中から根を出させる手法。

森林技術・支援センターで技術開発課題として取り組んでいます。

小学生へ森林教室を実施

十三湖土地改良区では地域で担う役割を啓発する活動として、「水と大地の探検隊」と呼んでいる農業水利施設見学会を開催しています。

その中で、水源地である森林の役割の説明や木材を用いた体験型学習を森林技術・支援センター職員が行いました。

今年は平成25年9月13日(金)に武田小学校の5年生13名、9月25日(水)に薄市小学校の5年生15名に対して行いました。

プレゼンテーション形式で森林の役割等の説明後、体験コーナーを設置し、木材を用いて樹種による重さの違い、おがくずを用いて木の香りの違いや実物の種子の形の違い等を直に触ったり、嗅いだり、見たりして理解を深めることができました。

質問コーナーでは、「一番高い木は何mくらいありますか」、「森林にはどのくらい木が立っているんですか」等の質問があり、職員が丁寧に説明をしました。



職員による森林の役割等の説明



体験コーナー



質問コーナー

民有林所有者へヒバ施業技術を指導

民有林所有者から所有林に天然で更新しているヒバの施業方法等の指導依頼があり、民有林への技術的支援の一環として、森林技術・支援センター職員がヒバ天然林施業法の考え方に基づく施業方法の指導を行いました。

所有者から様々な質問があり、森林・林業に対する熱意を感じました。

今後とも国有林がこれまで蓄積している林業技術等を民有林行政等に対して普及・支援して行くこととしています。



民有林所有者に施業指導を行う新屋敷所長

編集後記

早いもので今年も残り僅か。年末恒例の今年の漢字が発表されましたが、2013年を表す漢字は『輪』だそうです。4月1日より森林技術センターから森林技術・支援センターとして再編され8ヶ月が経ちました。チームワークの『輪』を大切に、来年はより一層センターで蓄積されてきた森林・林業技術の普及や民有林支援等の取組を積極的に実施していきたいと思っております。佳いお年をお過ごし下さい！